

科目名	民俗学概説	
担当者	森田 清美 / MORITA, Kiyomi	
科目情報	人間文化<歴史地理> / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	学芸員科目 / 選択 (法定科目名「民俗学」)	
科目概要	授業内容	歴史の表舞台に登場してこなかった人びとの民間伝承を比較して、それをダイナミックに分析することにより日本人の心意、生活文化の変容を明らかにする。そのうえで、老人や幼児への虐待・いじめ、老人への詐欺、少子化、若者の就職難などの諸問題を解決していくことを目指す。
	到達目標	日本人の伝統文化・心意を理解し、自覚する。その上で、現代社会の国内、国外の諸問題解決への対処・対応の仕方を知り、実践する意欲を身につける。次の世代へ受け継がれる応用民俗学を確立していく。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) 民俗学とは何か (現代社会における民俗学の視点) (2) 環境民俗学 (家と村・町における民俗学・境界の民俗学も含む) (3) 人びとの生業 (農業・漁業・諸職、建築儀礼など・・日本人の心の出所を探す) (4) 年中の行事 (正月・盆・彼岸・講・入学式・学園祭など) (5) 誕生・成人式・結婚・厄年などの問題 (人生儀礼Ⅰ) (6) 生と死の意味を考える。(人生儀礼Ⅱ) (7) 呪術者である修験者と日本宗教 (民間信仰・民俗宗教Ⅰ) (8) 弾圧下でも信仰の火を消さなかった浄土真宗系の「隠れ念仏」 (民俗宗教Ⅱ) (9) シャーマニズムと結びついた「隠れ念仏」 (民俗宗教Ⅲ) (10) 民俗芸能の保存 (太鼓踊・棒踊・神楽など伝統芸能の意味を探る) (11) 昔話と伝説・ことわざの現代的意味 (12) 妖怪と幽霊が現代でも登場する意味 (派生的昔話としての怪談) (13) 過疎の民俗・都市の民俗 (現代社会と民俗Ⅰ) (14) 優しさや癒しの意味 (現代社会の民俗Ⅱ) (15) 総まとめ (現代民俗学の行方と社会への貢献) 	
自学自習	事前学習	毎回の授業を受けるにあたって、事前に予習しておくべき事項・「使用教材」・「参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味の分からない用語は、民俗学事典などで事前に調べておくこと。
	事後学習	授業後に課す課題の概要、および次回まで復習すべき事項 3回おきに、小レポートを課す。 授業の初めに、前回学んだことに対する質問を課す。
使用教材・参考文献	【教】 授業ごとにプリント (小冊子) を次回の分まで配布する。 【参】 ・福田アジオ・宮田登『日本民俗学概論』吉川弘文館 ・森田清美『隠れ念仏と救い』鉾脈社	
成績評価方法と基準	平常点 (授業態度)・レポート・期末試験	
備考	希望により民俗学巡検 (民俗芸能・民俗行事見学・民俗調査) を積極的に実施。	